



大勢の親子が参加して活況に

社の事業を理解してもらうために子ども食堂を発案。実現に際しては区内の子ども食堂の手伝いを通じて知見を深めたほか、実施機関である一般社団法人「にしん子どもひろば」を立ち上げ、代表理事に就任して

※ 日伸鉄工建設(株) ※

「にしん子どもひろば」開催 子ども食堂や遊び場を提供

東京都のMグレードファブ、日伸鉄工建設(本社・葛飾区、金本貴範社長)は8月24日、区内の公共施設「にこわ新小岩」で子ども食堂と遊び場を提供する「にしん子どもひろば」を開催した。

「近年は鉄骨加工の際に発生する諸問題に配慮した経営を進めてきた」(金本社長)が、周辺の工場が宅地として再開発されるにつれ、近隣住民に対して配慮すべき課題が顕著になってきたという。

同社は23区内の住宅街に工場を構えているため、金本正江課長は、住民に同

事業を進めている。

金本代表理事は、「キャッチコピーは『優しくて力持ち』。地元への貢献を通じて地域共生企業として成長していきたいと考えた」とし、「わが社の平均年齢は30〜40代。私を含め子育ての現役なので、自然と子

ども食堂というアイデアが固まった」と経緯を語る。

「にしん子どもひろば」は子ども食堂だけでなく、遊び場も設けているのが特徴。遊び場では電動工

具などを使って人が乗れる橋を作ったり、社員が作成した鉄骨のミニチュアを組み立てたりとファブならではの遊びを提供している。

金本代表理事は「鉄骨屋らしさをコンセプトに、ファブらしい遊びを考えたい。遊びに来た親子にはわが社を紹介するパンフレットを

配布しており、親しみやすい町工場として理解してくれる仲間を増やしていきたい」と語る。

公共施設での開催が初となる当日は大勢の親子が参加、金本社長をはじめ同社社員と遊び場で遊んだり、用意していた70食のカレーのほとんどを配布するなど活況を呈していた。金本代表理事は、「こんなに来るとは思わなかった。今後は地元小

学校などにPRしながら毎月1回のペースで開催し、定着を目指していきたい」と感想を述べた。



70食のカレーを用意